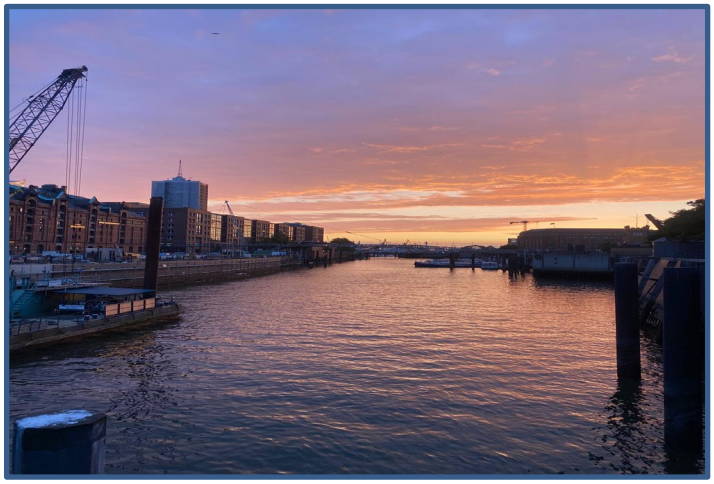
Osaka Metropolitan University

OMU Students 海外留学レポート



氏名　原　美紗紀
所属　文学部　言語文化学科
学年　３年

留学先　ハンブルク大学
留学期間　2024/4/1~2024/9/30

留学レポート Study Abroad Report

こんにちは。私は 2024 年の前期の間、ドイツのハンブルク大学で交換留学をしていました。この半年で得た経験・学びは多く、留学をして良かったと心から思っています。留学に興味がある方、現在留学を検討している方、迷っている方にとってこのレポートが少しでもお役に立てば幸いです。

○授業について

授業は留学生向けのドイツ語の授業を中心に、週８コマ取っていました。6 コマはドイツ語の授業です。4 技能をバランスよく学ぶ授業のほかにも、特定の分野に焦点をあてたものも複数あり、私はプレゼンと作文の授業を取っていました。あとの 2 コマは自分の専門分野に関わる講義とゼミに参加していました。最初は聞き取りに苦戦していましたが、毎講義前後に専門用語を復習し、頭に入れてから参加することで終盤の授業では初回の授業に比べ格段に内容が理解出来るようになり、メモを取る余裕も出来ました。また、ドイツにはタンデムと呼ばれる言語交換制度があり、私は 4 人の方とそれぞれ週 1 回タンデムを行っていました。内容はタンデムパートナーによって様々で、カードゲームを用いてドイツ語と日本語を互いに勉強したり、一緒に昼食をとりながらドイツ語で会話したり、お互いの試験勉強を教え合ったりなど、多岐に渡りました。天気が良い日は大学近くの公園に出かけて話すこともあり、振り返ってみるとタンデムということを忘れてただ一緒に楽しく話していたことが多いように感じます。友人とスムーズに会話したいという気持ちがどんどん強くなっていったことでドイツ語学習のモチベーションも高まり、結果的にドイツ語能力の向上に繋がりました。その他にも日本学科で開講されている日本語の文法の授業や作文の授業に隔週でサポーターとして出席していました。どちらの授業もドイツ語の勉強になるだけではなく、ドイツの文化について知ることが出来ました。授業中の交流を通じて仲良くなることも多く、その授業で仲良くなった方とタンデムをすることもありました。

○住居について

住居は、大学から電車で２駅の所にある BerlinerTor という寮の１部屋を借りていました。中央駅から１駅と非常に立地が良く、その割に家賃は安かったです。寮は１７階建てで、各階にフラットと呼ばれる居住スペースが４つあるという構造でした。各フラットには３、４人が住んでおり、１つのキッチン

と２つのバスルームを共有します。そしてそれぞれ１つ鍵のかかる個人の部屋がありました。なので、ルームシェアとマンションの間のようなシステムとなり、プライベートの尊重と他住民との交流のバランスがちょうど良く保たれていました。私のフラットは頻繁に部屋を空ける住民が多かったこともあり、前半のフラットメイトとは時間が合えば一緒に夕食をとり、長期で留守にするときは野菜や果物などの食材を譲り合ったりする程度のつかず離れずの距離感を築けていました。また、私の場合は同じハンブルク大学に交換留学に来ている日本人留学生が同じ寮の別のフラットに住んでいたため、何かあれば頼ることができるという安心感がありました。寮の１階の共有スペースではサッカーの試合のパブリックビューイングや誰かの誕生日パーティーなど頻繁にイベントが催されており、他の住民との交流を深める場となっていました。

○トラブルについて

今回の留学で特筆すべきトラブルはありませんでしたが、万が一トラブルが起きても対処できる体制が整っていると感じました。チューターの学生の方は渡航前から親切に色々と教えてくれますし、役所等へ出向く際もほとんど付き添ってくれます。また日本学科の先生方も留学生のことをとても気にかけてくださったため、何かあればすぐに誰かに相談できる環境でした。私は留学するのは今回が初めてだったため、チューターの方や先生方の存在がとても心強かったです。

○休日について

授業や友人との予定がない空いた時間は旅行に行きました。１学期間は ICE（新幹線のような高速鉄道合）を除く公共交通機関を利用することが出来るチケットがあったので、それを利用してドイツ国内の様々な場所を訪れました。ハンブルク周辺では Lübeck,Schwerin,Flensburg,Blankenese,Bremen などの都市、少し離れて Wernigerode,Hameln,Celle,Berlin,Dresden,Köln,Heidelberg といった東・西ドイツや南ドイツの München,Triberg,Stuttgard,Lindau など、興味のあった都市に行きました。どの都市も歴史的な町並みが残っており、目的もなく散歩するだけでも楽しかったです。また私は大阪公立大学で博物館科目を履修しており、博物館に興味があったため各地で博物館に行きました。学割が利く場所が多く、ほとんど 10 ユーロ以下で入場することができ、音声ガイドも充実していたので興味のある方は行かれることをおすすめします。特に Hameln や Triberg といった比較的訪問客の少ない都市の博物館では職員の方が丁寧に案内してくださり、とても良かったです。

また、ドイツ国外へも気軽に行くことが出来ます。ヨーロッパの国々の多くはシェンゲン協定に加盟しているため、電車やバスでそのまま国境を抜け、外国に行くことが出来ます。携帯電話の通信料についても協定により、多額のローミング料金を請求されることがないので、その点でも海外旅行へのハードルが低いです。私はバスでデンマーク・ベルギー・オランダ、電車でスイス、フェリーでオーストリアに行きましたが、デンマーク入国以外でパスポート提示を求められることはありませんでした。もちろん外国人である以上パスポートや居住許可証は常時携帯していなければなりませんが、気軽に海外旅行が出来るのは確かです。

旅行は基本的に息抜きのつもりでしたが、学びも多かったです。ドイツ語や英語を使ってのチケットの購入やホテルのチェックインは自信に繋がりましたし、現地の人々に積極的に話しかけることでドイツ語・英語を話すことへの心理的ハードルがなくなりました。また、ほとんどの旅行先へは一人で訪れたのですが、一人であったからこそ何かトラブルがあったときに冷静に状況を見極め、頼るべき人に頼る能力が身についたと感じています。

最後に

留学を終えてから、「どうだった？」と周囲の方々に聞かれることが多いですが、私はいつも「楽しかった！」と即答しています。もちろん、半年間海外で暮らしたので苦労や辛いことも振り返ればあったかもしれませんが、思い出すのは楽しい瞬間ばかりです。日本での忙しない生活から離れ、大好きな友人達に出会い、ひたすら勉強に打ち込んだ日々はとても貴重であったと実感しています。学習面で複数の能力を伸ばすことができただけでなく、ハンブルクで出会った人々と話す内に自身の進路についても再考することができ、様々な面で充実した留学生活でした。

もしこのレポートを読んでいて、留学するか迷っている方がいるなら留学することを強くおすすめします。不安に感じることもあるかもしれませんが、その不安は大抵何とかなります。確実に日本では出来ない経験が出来ますし、その経験は何らかの形でこれからの人生に活きるでしょう。

Fischmarkt(魚市場)

Stadtpark(市立公園)

EURO2024 のパブリックビューイング

国際海洋博物館

寮のキッチン

DOM(移動式遊園地)

Paternoster
(循環式エレベーター)

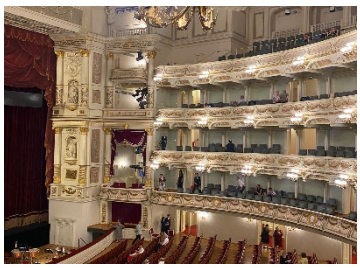
Lichterfest(光祭り)
Lübeck

ベルリン大聖堂
Berlin

Semperoper(歌劇場)
Dresden

Celle の町並み

Strandkorb
Travemünde



バイエルン国立歌劇場
München

バスタイ橋
Dresden

ニンフェンブルク城
München

鳩時計
Triberg

ハイデルベルク城
Heidelberg

ケルン大聖堂
Köln